

6.23

大学治安立法粉碎全大阪学生会集会

6/23

1) 校内集会(410) → 3) 全大阪学生会集会(大手前公園) ^{デモ} 5) 府民集会(中之島) → 御堂筋

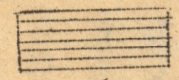
反安保全回統一行動に起て!

6、7月斗争をめぐる情勢

佐藤内閣内閣は、この間八月十五日までの延長国会において、大学治安立法、防衛二法、健保特例法延長案を中心に、出入国管理令改悪法制化、靖国神社国家護持法案等反動立法を一挙に強行、成立させようとしている。必以降、東大、日大をはじめとする全国学園斗争の昇場に対して政府は、日大発言、東大入試中止、芝工大弾圧、大学人事への介入、機動隊介入のための4、2連発等の政界介入をくりつつ、一方、徹底した武力弾圧と機動隊介入、前線、大量投擲、長期拘留を繰り返す、治安対策として弾圧して来ている。そして、他方、今国会において、これら一連の弾圧を制度化した大学斗争弾圧の権力を政府のもとにおさめつつ、大学の帝国主義的再編の足場をかりめようとしている。

かかる弾圧は、大学のみならず、全ての分野において進行している。即ち反安保街頭斗争に対する弾圧強化、破防法の適用、弾圧体制の整備、動労合理化へ助死禁止反対ストに対する大量分、全通に対する挑発弾圧、6、15斗争における不平連を中心とした不当逮捕、弾圧等々。

かかる弾圧強化のおかげで、今国会でなされている一連の反動立法は、特に治安立法とその性格を露骨にしている。日本帝国主義は、かかる治安立法を軸に、帝国主義国家の再編、整備、イデオロギー的刷新をかううとしているのである。われわれは、最近の政府、独断の一連の弾圧強化、反動立法への動きを、ゆがれ半以降の日本帝国主義の東南アジア侵略の強心、達成の一連の準備のなかで位置付け、治安立法との関係の明確に心懸ておく必要がある。つまり、われわれは、東南アジア支配体制——日本反共マシテ侵略マシテローグラーの定態を形成したこと。かかる事態に對してアジア反共同盟を軸保を軸として再編しようとしているのであり、佐藤政府の一連の治安強化、反動立法は、企業再編——合理化、労働運動の弾圧とともに、まさに、日本帝国主義のかかる東南アジア支配、侵略体制を支える国内支配体制の再編の一環——重要な環であることを確認しておく必要がある。



政府の大学再編に包摂される当局——民青、民学同の「改革」路線を粉碎し、大学治安立法粉碎へ向けて前進せよ

以上のような厳しい情勢のなかで、6月20日「大学立法粉碎」全市大統一行動が、一五〇の名にものぼる参加によつて御堂筋デモで斗がわれた。だが、我々は、これを敗者をあげて歓迎するわけにはいかなかったのである。市大斗争の破壊を積極的に行なっている大学当局と民青が参加しなかったのは当然のことであるにしても、民学同が「積極的」に参加したのは、まさに「驚くべきことである。民学同の発端から現在に至るまでの斗争の破壊運動の一環を在り、当局の一貫した圧制收拾策動を批判できず、それにかかり「4、7月解決」に「執行要請規定」なるものを入れれば「民主的改悪」が進むのだと云々を言っている諸君が、しかも、6、15教員連合デモに参加してみたり、八方美人の行爲をとっている諸君が、何の恥すか、いけもなく参加したのである。まさに、6、20統一行動は、学内において中教員会由路線にまき込まれ、市大斗争の再編から治安立法運動をおしすすめている当局とそれと一体化した部分に対する徹底的な

革新グループ